

令和7年度 第2回石神井公園ふるさと文化館

運営懇談会議事録

日 時 令和8年3月17日（火） 午前10時 ～ 午前11時
場 所 石神井公園ふるさと文化館 多目的会議室
出 席 者 委員10名
次 第 等 1 公益財団法人練馬区文化振興協会副理事長挨拶
石神井公園ふるさと文化館館長挨拶
2 次第
(1) 令和7年度事業実施結果について（令和7年4月から令和7年12月）
(2) 令和8年度事業実施計画について
(3) その他
傍 聴 者 なし

【副館長】練馬区文化振興協会代表の副理事長からご挨拶させていただきます。

【副理事長】おはようございます。今日は朝からおいでいただきまして、本当にありがとうございます。私ども、このふるさと文化館の指定管理を担っております文化振興協会になります。文化振興協会では今、もっともっとアートということで、皆さんに掛け声をかけまして、さらに区の文化芸術振興の一翼を担っていきたいと思っているところでございます。このふるさと文化館につきましても区の文化の大事な施設でございます。

今日は7年度の結果と8年度の事業計画をご報告して、ご意見を頂戴することになります。区の最大の特徴かもしれませんが、漫画家が日本一、いや、世界一多い区だと思っております。村上館長に就任いただいて以来、特に6年度、7年度にかけまして、その特徴を最大限生かした事業を充実してまいりました。

さらに、来年度から3年間、指定管理を引き続き担うこととなります。この3年間の中で、特に9年度には、練馬区が板橋区から独立して80年を迎えます。また、区で80年のお祝いというようなことがあれば、それに呼応して私どももいろいろ考えながら、その一助を担いたいというふうに思っております。どうか様々なご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【副館長】続きまして、当館の館長からご挨拶させていただきます。

【館 長】おはようございます。お忙しい中、今日はお集まりいただきましてありがとうございます。館長の村上もとかでございます。今年の3月で丸3年になりました。おかげさまで、何とか盛り上げる一助になっていればいいなと思ひながら努めております。

本年度も、練馬区の伝統文化に関する事業や区が策定した映像∞文化のまち構想に沿った事業などを行いました。後ほど、事務局から今年度の事業報告をさせていただきます。

さて、今回も練馬区立美術館と連携して浮世絵に関する企画展を実施しまして、ふるさと文化館からは、上石神井村の旧家で所蔵していた館蔵の浮世絵を展示しました。色彩が非常に保たれて保存されていて、その保存状態のよさに感動いたしました。私も繰り返し観覧しました。改めて、江戸時代から続く練馬の底力みたいなものを感じて、大変誇らしく思う企画展でございました。さらに、特別展で「練馬とアニメーション アニメ製作のいまむかし」を開催し、館蔵のアニメ資料の活用を図りました。私も、館長着任時に所蔵してある膨大な量のアニメ資料を見せていただきました。すばらしいものではあるけれども、これを展示会にするにはどのようにしたらいいのだろうかというふうに感じていたのですが、皆様のお力添えでもって、現代の最先端のアニメにも通じるようなすばらしい展示ができたのではないかと考えております。

また、我々練馬区ゆかりの漫画家との連携協力として、今年度も引き続き、ワークショップ「プロの漫画家に教わる漫画教室」を実施しておりまして、多くの子どもたちが漫画を描く体験をしてもらうこともできております。大変好評だと聞いて、私も喜んでおります。

このように、今年度も多くの事業を実施し、たくさんの皆様に御来館いただきました。本日は、ふるさと文化館が地域の博物館としてさらに皆様のお役に立てるよう、ふるさと文化館の運営および事業について、今日は皆様のご意見をいただければ幸いです。何とぞ、よろしくお願いします。

【副館長】 それでは、ただいまから令和7年度第2回の石神井公園ふるさと文化館運営懇談会を開催させていただきます。

本日はオブザーバーとして、区から、文化・生涯学習課長にも出席していただいております。

次に、当館からの出席者を紹介させていただきます。

（ふるさと文化館職員の紹介）

区から文化・生涯学習課の伝統文化係長も出席させていただきます。

【座 長】 それでは、懇談会の公開につきまして事務局からお願いします。

【副館長】 懇談会の公開について説明いたします。

懇談会につきましては、原則公開とさせていただきます。公開方法につきましては、傍聴および議事録の当館ホームページ掲載によるものとさせていただきます。

【座 長】 本日の傍聴委員の方はございませんか。

【副館長】 ございません。

【座 長】 傍聴の方がいらっしゃらないようですので、これより次第に沿って議事に入りたいと思います。

令和7年度事業について、事務局より説明をお願いいたします。

【副館長】 （令和7年度事業実施結果（令和7年4月から令和7年12月）についての説明）

【座 長】いろいろな事業をやっていただいて、面白い事業もたくさんございました。ただいまの説明で、ご質問等がございましたらお受けしたいと思います。

（なし）

【座 長】ないようでしたら、最後に皆さんに一言ずついただきますので、次に参りたいと思います。

次の議題、資料2の令和8年度事業計画について、事務局から説明をお願いいたします。

【副館長】（令和8年度事業実施計画について説明）

【座 長】ただいま、令和8年度事業計画について説明がございました。

ご意見、ご要望でも結構です。一言ずついただいてまいりたいと思います。

【委 員】町会長を務めております。

私自身、旧内田家住宅のような茅葺の家に暮らしておりましたので、この文化館ができるということで、いろいろ期待する面もありましたし、大変興味がありました。

15年も経つのかと思ってびっくりしたのですが、この1年間、皆さんと一緒に懇談会の委員をさせていただいて、じっくり色々なところを拝見させていただき、こんなに沢山の色々な企画をされているのかと思って、非常に驚いております。まさに石神井を中心に練馬区全体を象徴するような活動でありますし、我々も非常に心強く思っております。自慢の施設かなというふうに思っています。もちろん、公園全体も自慢ですし、外部の人にもふるさと文化館も見てもらいたいなというふうに思っています。

もう一つお話をさせていただきますが、我々は、長くこちらに住んでいる者が中心に活動している町会で、70、80代の老人が多く石神井について色々思いがあり、見聞きしていることもあるのですが、何か断片的でありあまり系統적으로お話できる人がいないということで、皆さんからもっと我が町石神井を知ろうではないかという意見が出ました。11月30日にふるさと文化館の学芸員にお願いしまして、石神井の歴史、石神井がどんな形で開発が進んできたのか、今どんなふうになっているのかということも含めて、お話をさせていただきました。もう目からうろこといいですか、石神井のことを知っていそうでも、なかなかここまでのことは分からないなと。そういう知識のある方がいらっしゃる、そういう資料も残っているということで、本当に感激しました。

少しは石神井のことについて、他の皆さんにもお話ができるようなことになっておりますので、この後もよろしく願いいたします。

【座 長】ありがとうございます。

それでは次の方お願いいたします。

【委 員】中学校の校長をしております。

ふるさと文化館での様々な企画、展示会の企画は、学校にも手紙や新聞等が配布されて、子どもたちも興味を持って見ていると思います。また、中学校、小学校で様々な見学を受け入れていただき、子どもたちの地域理解というところが進んでいるかなと思っています。

今の子どもたちは、引っ越しをして新しく住まれている方が多く、保護者の代も含めて、なかなか地域理解が進んでいかないかなと思っています。こういった見学を通じて地域理解、そして地域の中で活躍していく子どもたちが、学校教育においても育成できればというふうに思っています。

また、中学校の教育研究会において、夏休みにこちらの学芸員等と連携して、地域理解を深めるという企画をやっていただきました。教員も異動があり地域理解が進んでいかない中で、こういった企画で教員がまず地域理解を深めていくことが必要かなと思っています。そのような中で、地域の歴史、地理、文化等様々、まず教員が理解し子どもたちに伝えていくという重要性を改めて実感させていただきました。

学校でも、子どもたちを通じて保護者、地域と共に地域理解を進めていきたいと思っております。また来年度も、是非いろいろと教えていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【座 長】ありがとうございます。

次の方お願いいたします。

【委 員】区で観光部門の課長をしております。

ふるさと文化館におかれましては、当課の事業、また、練馬観光センターの事業である区内周遊促進事業等でご協力、ご理解いただいているところでございます。来月に石神井公園を会場に照姫まつりがございます。それについても大変御理解、御協力いただき感謝してございます。

照姫まつりの実行委員会から、改めて照姫まつりの会場となった石神井の歴史などを学ぶ必要があるのではないか、特に照姫行列に参加される方が、そういったことを理解して当日の行列を演技するといったことで身がはいるのではないかと、ご意見がございました。今後、まつりに御参加される方々に地域のことを理解していただく際、ふるさと文化館の方に御協力いただければと思っております。引き続き連携を図りながら進めていきたいと思っております。今後とも、よろしくお願いいたします。

【座 長】ありがとうございます。

それでは次の方お願いいたします。

【委 員】区で教育部門の課長をしております。

教育委員会全体というところで、ふるさと文化館には、各学校の受入れをはじめ図書館との連携など、子どもたちに地域というものがどういうふうに位置づけになっているのか、自分たちが住んでいる練馬というものがどういうふうな歴史を歩んできたのかということを、様々な角度で教えていただく機会を作っていただいていると理解してございます。

先ほどの今年度の事業説明の中に、春日小に講師派遣をしていただいて、練馬大根の植え方を教えていただいたというお話がございました。私ども教育委員会で年に3回ほど実施している教育委員の先生方が学校に出向く出前教育委員会で、今年度たまたま春日小に行く機会がございまして、校長先生や副校長先生から、ふるさと文化館に協力いただいて練馬大根の植え方などを子

どもたちが学んだという話を聞いたことを思い出しました。こうした自分たちの住んでいる町を知ることができる施設があるということ、また、その施設と連携して教育が展開できるというところが、練馬区の一つの強みであると考えております。引き続き、教育委員会とも連携させていただきながら、子どもたちのために、地域の在り方や歴史、そういったものを一緒に育てていただければと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

【座 長】ありがとうございます。

それでは、文化・生涯学習課長からも一言お願いします。

【文化・生涯学習課長】

今お話を聞いていて、二点お話ししたいなと思っていたのですが、一点目は、ふるさと文化館が行っている事業についてです。先ほど、令和7年度の展覧会のご紹介がありました。令和6年度は非常に来館者が多かったのですが、令和7年度は昭和100年、戦後80年、また、武蔵野鉄道開通110周年と、それぞれ周年のような形で、いわゆる地域博物館として正統派の企画で、きっちりと面白い企画をした上で来館者を確保できた、というところが大変意義のあることだと思いながら聞いておりました。

まさに様々な事業実施については、切り口が勝負の部分もあるので、興味が湧くような形を令和8年度もやっていただければというふうに思っています。

もう一点は、今までのお話を聞いていて、ふるさと文化館が、教育研究会や学習会など地域の様々なところにうまく入り込みながら地域理解を促す役割を適切に機能させているといいますか、開館から15年経過して様々なつながりを生みながら、研究と地域連携が進んでいるということも意義があることかなということです。

引き続き、指定管理の切替えということで、冒頭で副理事長からお話がありましたけれども、ここから3年間、また新たな期間が始まりますので、さらなる充実に期待したいと思います。

【座 長】ありがとうございます。

それでは、次の方お願いします。

【委 員】去年の11月半ばから、世田谷文学館で、ドナルド・キーン展というのをやっていました。練馬区には文学館がないので、そういう企画をする人たちはこの館にいますか。それとも別のところにいるのですか。

【副館長】全国的なというよりは、練馬区ゆかりの文化人というところの文学者は、分室で展示しています。

練馬区ゆかりの文化人ですけれども、分室を担当している学芸員がいます。

【座 長】ありがとうございました。

では、次の方お願いいたします。

【委 員】私も、ここから近いところに住んでおまして、この館にはよく来て、本当に帰り道、行き道に通って見ている感じでおります。

ここは民間の博物館ではないので、多分、次世代につなぐようなことが求めら

れるのかなと思っております。そういう視点で見ますと体験型学習・参加型学習をいろいろやっていらっしゃっていて、これは次世代につながるような雰囲気があって頼もしいなと思っております。

私も学芸員で、民間の美術館や博物館の館長をしておりました。その視点で、こういういろいろな資料を見ては、これは大変だったのだろうとか、もう本当にご苦労が手に取るように分かります。本当にお疲れさまでしたと、申し上げたいことと、これからもよろしくお願いしますという気持ちがあります。

あと、2月にギャラリートークを聞きました。とてもいいですね。練馬区的美術館との連携もいいし、これは相当大変なことだったと思いますけれども、ギャラリートークであれだけ人が集まるのはすごいなと思って、皆さんも関心がおありでしょうし、資料の持つ力かなと思って、すごく頼もしく思いました。本当にお疲れさまでございます。

【座 長】ありがとうございます。

それでは、次の方、お願いします。

【委 員】今朝も来るときに見たのですけれども、檀一雄の碑がありまして、「何のその100年後は塵芥」という言葉が書いてあるのですが、実際、ふるさと文化館がやっていることはとても重要なことで、先ほどもまさにお話がありましたが、次世代というふうなこともそうですが、どんどん残していかなくてはいけないというふうに思っております。

特に去年、展示解説会での水車の話とか私は拝聴させていただきまして、そのような学芸員の方々が話されていることも残した方がいいのではないかなと思ったりしました。今はY o u T u b eとか、いろいろと音声の媒体とかがあります。しかも、費用は全然かからない。ふるさと文化館の所蔵物とか、あるいは知見とかを残していった方がいいかなと。

あと、アニメーションの上映会「白蛇伝」は会場が満杯ぐらいにお客様がおられて、こんなにたくさんいるのだという感じで非常に興奮を覚えた思いがあります。

今はその中で、先ほどの委員のお話とか、大根のこととかに繋がるのですが、ふるさと文化館がメインにやっているというのが大根の展示だと思いますが、野菜の販売とか大根などについてデータフィクションという感じで、子どもたち、あるいは高齢の方々が行く道筋を作れないかなと思っております。これは本当に荒唐無稽で、教育や産業等に関わってくるかと思いますが、全体を絡めてふるさとを残していくというような感じにしていきたいなというふうに希望しております。

あとは、令和8年度事業計画で千川上水330周年ということなので、これも先ほどのデータフィクションという位置情報をくっつけて、ぜひ練馬区の方、特に小学生、中学生の方々が、その上水を、文化を練馬の資産というものを確認していく。自分が育ったのはこういったところだよというところを後年にも語れるようにしていきたいなというふうに思っております。

ふるさと文化館の事業とは違うのですけれども、自動販売機の販売価格とか、そういったものを知りたいなと思っております。特に、博物館や美術館でよく行われているのが、お土産品を最後に売ることが大事になったりして、ここも書籍とかを売っていらっしゃいますけれども、そういったものを拡充していくことによって、売上げをどんどん上げていくという感じで、ふるさと文化館を盛り上げていけるのではないかなというふうに思っております。

あとは、その中での所蔵物はすごくたくさんあると思いますし、そういった所蔵物を貸し出すことで収益を上げていくこともいいのではないかなというふうに思っております。

最後になりますけれども、こういった有益なお話をいただいているので、今のふるさと文化館のホームページに懇談会の議事録を必要であれば公開して、区民の方々、あるいは来館者の方々が見られるようにした方がいいのではないかなと。ご検討いただければと思います。

【座 長】ありがとうございます。

それでは、次の方、よろしくお願いいたします。

【委 員】前回からこの会議に出席させてもらっております。

特別展につきましては毎回拝見させてもらうことにしているのですけれども、今年度は、まず昭和100年のペーパーアート。これは単なる作品展ではなくて、練馬の昭和ということで、地域博物館的な再解釈をしているということで大変面白かったというふうに思います。

それから、今回の浮世絵展。これは美術館との初のコラボということで、大変なこともあったのでしょうけれども、実に大きな意義があったかというふうに思います。ここで展示されていまして栗原家の浮世絵コレクションというのは、これはまさに美術収集家のコレクションではないところに大きな意義があらうかというふうに思います。地元の名士の方が文化活動の一環として集めて、これを享受していた。その元の形の資料自体も残されていたということで、これは美術資料の地域博物館的再評価ということで、大きな意義があったというふうに思います。

美術館の浮世絵展というのはありますけれども、こういった視点での博物館展示というのはあまりないなというふうに思いまして、大変意義があったかというふうに思います。

そもそも栗原家のコレクションと小林清親というのは、偶然だったのでしょうかけれども、この資料群を近代化という文脈、近代化の萌芽と進化という文脈で捉えた展示と展示図録の内容というのは非常に秀逸だったなというふうに考えております。

それから、常設展示につきましては、コンセプトとしまして、とりかえられる展示ということで、更新性のある展示ということでうたわっておりますけれども、これも口先だけではなくて毎年必ず変わっておりまして、今もされているのでしょうけれども、子どもの落書きコーナーというのがあったのです

よね。あれは大変面白い視点ですよ。

漫画という練馬区のテーマと一部コラボするような中身で、そのような資料の捉え方というものも重要なというふうに思います。

そして、としまえんの展示もあった。東武東上線の展示で私の一つの最寄り駅である東武練馬の資料の展示がありました。思うに、あそこは板橋区との境で、展示自体は板橋区なるのでしたか。練馬区には西武線が真ん中を走っていますけれども、東武線上にも練馬の入り口があるという、そういった練馬側の主張が見え隠れしているようで面白いなというふうに思ったところがあります。

そういったことで、来年度も美術館のコラボということも予定されているようですので、美術資料の地域博物館的な再解釈ということで、また引き続き期待していきたいというふうに思っております。

【座 長】ありがとうございました。

最後に副座長をお願いします。

【副座長】石泉囃子連合会の会長で、囃子をやっています。開館した15年前には、本当にこの場で南田中囃子で、獅子舞を披露させていただきました。

先ほどの事業説明の中で、気に入っているところが二つございまして、一つは特別展、アニメーションのまち練馬ということで、昨年は大泉が中心で、東映映画ということで、かなり話題になりましたけれども、私の住んでいる南田中という町は、すぐ近くに当時の虫プロダクションという、手塚治虫先生がしょっちゅう通っていらっしゃった虫プロが、家から400メートルのところにございまして、私が幼稚園から小学校入った頃は、虫プロダクションの屋根裏に映像が映る会場がありまして、鉄腕アトム、ジャングル大帝、リボンの騎士、ワンダースリーとか、ちょうどそれが上映調整で、内緒で、屋根裏で見せていただいた記憶が残っております。

あと、線路をまたいだところにちばてつやさんがいらっやまして、当時、ハリスの旋風というのがはやっておりまして、アニメーションに関しては、私もあちらこちらに乗って、いろいろと勉強させていただいた記憶がございます。

今年の企画展というのは、武蔵野鉄道開通110周年ということでございまして、今は西武線というと、メジャーで8両編成、もしくは10両編成になっていると思うのですが、私が小学校に入った頃は、半分の2両編成、半分の4両編成。もちろん高架線なんかなかったものですから、2両編成は床が板張りの電車だったという記憶がございます。

こちらで企画展とか110周年とかを拝見させていただきながら、懐かしいなと興味がございました。

また、これから来年度、再来年度に向けて、いろいろな企画がされていただけることを期待しました。今後ともよろしくお願いいたします。

【座 長】ありがとうございました。

最後に、私は手工芸作家連盟の30周年が終わりまして、本当にこの館の皆様

のお力添えと、それから館長さん、ご講演ありがとうございます。皆様にもお力添えをいただきながら会は無事終了いたしまして、ご好評を得ました。公募展も今度は14回です。そういうふうな土台を作り上げていきながら、皆さんと関わるが大変大事だと思って、今、副座長、委員の皆さんにいろいろなご意見を出していただきましたので、今後とも皆様のお力添えをいただきながら、この館を進めてまいりたいと思いますが、その前に、これで議事が終わっておりますし、御意見もいただいております。

事務局からの連絡事項はございますか。

【副館長】最後に、事務局よりお願いさせていただきます。

（自己評価表記入の説明）

委員の皆様からの意見等を、事業の参考にさせていただきたいと思います。お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、懇談会の委員の任期が2年であるため、今回で今期の任期が満了となります。御協力ありがとうございました。

皆さん、本日はどうもありがとうございました。